

来期に向けて

27歳、4年間働いた千代田区役所を退職して、区議会に。2票差で最下位からの出発でした。

以来、16年、議会の中では

1. 長いものには巻かれぬ。強いものには屈しない。
2. 困っている人々のために働く。
3. 政治は信念。票にとらわれて動くことはしない。

このようなスタンスで、取り組んできました。この4年間は、会派「ちよだの声」、持ち味の違う議員4人のチームで、少人数でも精一杯、区民に身近な課題を議論し、提案し、改善、実現もしてきました。



区長選と団体補助金をめぐって発言中止の動議を受ける瞬間!

小枝すみ子は以下のことに取り組みます

【千代田区を住民自治のまちに】

- 千代田区型自治基本条例の制定 ●こども議会、土日夜間議会の開催
- 政策立案過程からの情報公開 ●すべての審議会の公募・公開
- 審議会等の男女公平枠（いずれも4割を下回らない）

【千代田区を世界に誇れる環境都市に】

- 景観まちづくり条例の強化 ●開発における環境負荷増大の数値化
- 都心のヒートアイランドを促進する神田駅東北新幹線二重高架計画に反対、あらゆる方法で地下化を進める ●神田川・日本橋川の小型水上バス構想

【千代田区を子育て・介護・人権のまちに】

- こども条例の制定 ●発達障害児への支援充実 ●一人暮らし高齢者・若者への支援
- 非常勤職員の処遇改善 ●未利用区有地にお年寄りと子どもの居場所

【千代田区の活性化を住民の手で】

- 未利用区有地活用コンペなどで活性化プランを出し合おう ●外国人留学生寮の誘致



得がたい人、小枝さん ●久保田有子（三崎町・友人）

神田保育園で出会った小枝さんは、議員らしい素振りもなく、普通のお母さんという感じでしたが、いざ、政治となると、私利私欲なく、大きな信念とパワーを発揮する不思議な人です。

小さな子どもを抱えているのに、選択肢がないような選挙では、民主主義は消えてしまうと、使命感をもって区長選などをきりもりする姿はなかなかのもの。

今度は、都政をこのままにしては…と、「浅野史郎さんを都知事に出馬させる会」から「当

選させる会」へと、夜も昼もなく走り回っているようです。

そんなことで小枝さん自身は大丈夫かしらとかなり心配ですが、きっとニコニコしながら、「民主主義のためだからみんなも頼むね」というのでしょう。

自分の選挙は「車も出さない、事務所も出さない、マイク一本でやる」とのこと。こうなったら奇跡が起きて欲しいと願います。



●千代田区議会 会派 ちよだの声の区政報告●

2007年3月14日

小枝通信

NO.37

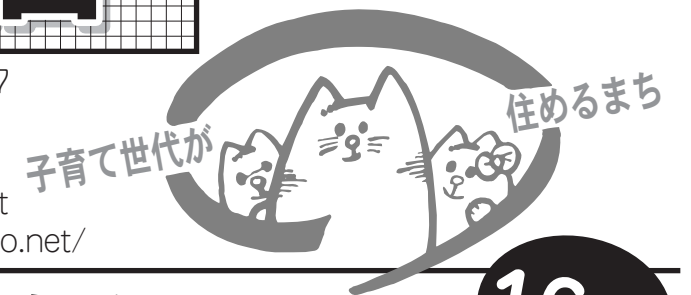
〒101-0063 千代田区神田淡路町2-27

Tel. Fax. 03-3253-0092

ちよだの声

Eメール: koeda@chiyoda-no-koe.net

ホームページ: http://www.koeda-sumiko.net/



『声なき声に耳をすまし、声なき声に支えられて』

5度目の挑戦

16年!!



行政サービス度No.1といわれる千代田区!!
あなたは実感できますか?

いつも小枝の区議会報告をお読みいただきありがとうございます。

2月から始まった予算議会で、私の4期目は以下の本会議質問でしめくくりました。1)千代田型住民参加のルールづくり 2)発達障害児教育への理解促進 3)非常勤職員の処遇改善、の三本です。一点目の、区民にとって重要なことはまず区民に聞くシステムの確立については、16年間をほぼ通した論点でしたが、区長としては「そろそろその時期、必要性を感じている」と切々としながら前向きな答弁がはじめて得られたのは私にとって言葉に言いがたい感動でした。

他の二点についてもかみ合うもので、最後の“ご祝儀”があるとしてもこれまで対立することも多かった議場で、何かが変わりつつある手ごたえを感じました。

是非、「住民の満足度」を真に高める行政サービスの提供を心がけて欲しいものです。

さて、都知事選です!

この1ヶ月都知事選に没頭しています。宮城県で日本の障害者福祉に先鞭をつけ、情報公開の最先端モデルをつくりあげた浅野史郎さん、2月16日「ハートに火をつける会」の呼びかけから始まり、その人物の大きさにほれ込んでいます。世界に冠たる大都市、でもなんとなく生きづらい東京を、「子どもたちの瞳が輝く東京に変えたい!」そう願っています。

(小枝)

こえだ すみこ

- 1963年12月1日 世田谷区生まれ
- 1981年 都立小松川高校卒業
- 同年 法律事務所勤務
- 1986年 明治大学二部法学部卒業
- 1987年 千代田区役所就職
- 1991年 区政への参加を決意し退職
- 同年 区議選初当選 (27歳)
- 1995年 二期目当選
- 1999年 三期目当選
- 2003年 四期目当選
- 「区民生活委員会」副委員長
- 「次世代育成支援特別委」委員
- 「まちづくり特別委」委員

「全国フェミニスト議員連盟」事務局
「変えなきゃ!議会2007キャンペーン」参加

メインテーマ 都市政策、環境、福祉

家族 夫と子ども2人
(神田保育園・昌平小学校)

あなただったら どんな**予算要望**を出しますか？

2007年度(平成19年度) 予算および政策要望書

千代田区長 石川 雅己 様

2006年12月25日

ちよだの声 幹事長 小林たかや
小枝すみ子
寺沢 文子
小山みつ子

I. 「住宅まちづくり」について

- 1、コミュニティ支援マンション制度(子育て支援+中高年の生きがい支援マンション等)の開始 ○
- 2、皇居の景観を守り、節度ある高さ規制を含む総合的まちづくり条例の制定 ✕
- 3、スポーツ公園・ドックラン・市民農園等、土の広場の確保施策 △
- 4、コーポラティブハウス事業の拡充推進 ○
- 5、子どもを含む住民参加による公園改修の実施 ○
- 6、意欲ある住民が自主的に参加できる「まちづくり協議会」の立ち上げ支援 ✕
- 7、親元近居助成事業開始から5年、住民を取り巻く状況は改善されていない。事業の継続および、居住継続のための支援策実施 ◎

II. 「緑化・環境事業」について

- 1、リサイクルセンターの移転・拡充 ✕
- 2、土と苗木の配布事業実施 ✕
- 3、ヒートアイランド対策として、東京都下の森林保全に関する補助推進 ✕
- 4、屋上緑化・壁面・空中緑化事業の一層の推進 ○

III. 「子育て・教育・介護・福祉」について

- 1、働く夫婦にとって最も切実な病時一時保育の実現(区内病院との提携を視野に入れて) ◎
- 2、中学生までの医療費無料化事業実施 ◎
- 3、落ちこぼし学びそびれをなくすための区立小中学校土曜学級の場の確保と質の向上 ○
- 4、児童館・学校放課後における読み聞かせボランティアやスクールカウンセラーの大学生派遣事業の推進 ○
- 5、学校図書室の書架の充実、各校への学校司書の配置(2006年現在の書架数は、すべての小学校で文科省標準数以下) ○

自己評価ランキング

◎…ドンピシャリ ○…ほぼ一致 ○…改善、充実 △…手ごたえあり ✕…まだまだ

継続拡充決定!!

『次世代育成住宅助成 約4600万円』

- 助成期間が5年→8年になりました
- 親が10年居住だったものが5年に短縮しました。
- マイホーム購入にも月賦助成あり
- ひとり親世帯も今回は対象に

『廃プラスチックの資源回収事業実施』

「サーマルリサイクル(廃プラ焼却で発電)」に先立ち、資源として活かす方策をと求め、10月より実施となりました。

私たちは2006年3月定例会

で次世代育成手当(児童手当)よりも『優先すべきは中学生までの子ども医療費助成である。』と表明し、独自の主張を掲げました。10月実施です。病児保育も実現しました。

- 6、保育園・子ども園等、子育て現場での専門職(教諭・保育士)の人員増を図ることもしくは、非常勤の安定的雇用に向けた処遇改善 ○
- 7、庁内男性職員の育休取得率アップのための具体的施策実施 △
- 8、(仮称)障害者福祉センターの設置後も、区有地を利用して親なき後の住宅や障害者のデイサービスのための拠点施設、障害児のための療育施設の設置推進 ○
- 9、発達障害児の介助員(安全確認のみとされている)を教育指導員と改め、その処遇の改善 ○
- 10、身近なところで介護が受けられるよう、区有地など活用して、小規模多機能型介護施設、グループホーム、ケアハウスなどを誘致 ○
- 11、区内高齢者が、資産を担保にして利用できるシステムの構築 △
- 12、高齢者の紙おむつ支給限度額の引き上げ(入院者平均支払額3万~4万円) ◎
- 13、(仮称)高齢者総合サポートセンターの整備、早期実現 ○

IV. 「文化事業」について

- 1、複合施設の音響設備の機能更新 △
- 2、アーティストインレジデンスの実施 ○
- 3、千代田区技能名匠者認定事業の創設 ✕

V. 「防災事業」について

- 1、防災ラジオの配布、FMちよだ(コミュニティFM)の開始と周波数などいざというときの千代田情報を明記したシールの配布 △
- 2、避難所のバリアフリー化 ✕
- 3、防災緊急パッケージの配布 ✕

VI. 「その他事業」

- 1、撤去された自転車の回収率を上げるため、放置自転車の罰則金3000円の値下げ ✕
- 2、指定管理者の事業者選定にあたり、評価項目に、男女平等、障害者雇用、環境保護を盛り込み、かつ選定にあたっては、行政の恣意が働かないように、評価項目と各人の評価点につきできる限り公開する。選定後のモニタリング検証を随時公開することで、事後のチェック機能を強化する △

毎月300人前後が利用する『紙オムツ支給』は1人月額7500円が限度でした。入院者の平均負担額は3万円以上、と改善を求めたところ月額2万円をオムツ以外の日用品も含めた制度として新たにスタートしました。『後期高齢者入院時負担軽減』制度



'91年 初当選の日

明日の天気は変えられないが
明日の政治は変えられる!
走り続けて...



'95年 2回目の選挙

'99年 3回目の選挙



'03年 4回目の選挙



これまでどちらかという意見の食い違いが多かった石川区政と不思議と一致することが多かった2007年度予算でした。今回は公費によるおまつりイベントの見直しなどを求めつつ、久しぶりで当初予算に賛成しました。「甘い!!」との批評もあるかもしれませんが。